



ご挨拶

晩冬の候、弘願院檀信徒ならびに「安養～弘願院だより～」をご覧の皆さまにおかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より弘願院の寺門興隆のために種々ご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

本年は全国的に暖冬といわれております。ここ金沢のみならず全国的に例年よりも雪の少ない冬となりそうです。札幌で開催された「さっぽろ雪まつり」も雪不足の影響で会場の札幌市から二時間かかる場所から集められたそうです。金沢市湯涌でも江戸時代に將軍家へ献上するための氷作りを再現した「氷室の仕込み（雪詰め）」も全く積雪のない状態で迎えたそうであります。何年も前から懸念されている「地球温暖化」というものは確実に影響しているのだなと実感いたします。

立春を越えてから寒さが一段と深まったかと思えば、最近のニュースの一面は中国の武漢で発生した「新型コロナウイルス」に関するものでしょう。全世界で猛威を振るっており、その影響でマスクや消毒液等の品切れが続き、世界各地で混乱や不安な状態が続いております。

【自分さえよければいいや】

世界の人口は約76億人といわれていますが、この76億人が「自分のことだけ」考え行動したらどうなるでしょうか？

仏教では、足るを知らない欲の心、怒りの心、恨みや妬みの愚痴の心が、苦しみの原因であると説かれています。その根本は「我利我利」であるといわれます。

「我利我利」とは字のごとく、「自分さえよければ他人なんてどうなっても。相手よりもまずは自分が」という心であります。実際にマスクを奪い合って人間同士が傷つけあうということも起こっています。また、近年問題になっているプラスチックゴミの不法投棄による海洋汚染や、それを処理する際に発生するCO2による気候変動も、「温暖化」として近年の豪雨や台風の巨大化に影響し、我々の生活を脅かしています。

これらに共通する「自分さえよければ」という心が、知らず知らずのうちに自分の心の中に恐ろしい「悪」を作りだし、相手のみならず巡り巡って自らをも傷つけてしまうのです。

お釈迦様は、「幸せになりたければ、相手を思いやりなさい。相手の幸せを思いやってかけた言葉や行動は、必ず、あなた自身に思いやりとなって返ってきます」と教えられており、これを「自利利他」といいます。

「自利利他」の生き方をするか、「我利我利」の考え方で生きるか、大きな分かれ道です。今こそ仏教の教えを大切に、独り占めでなく、互いに分かち合って、共に生きていかなくてもなりません。まずは自分の身近なところから共に始めてみましょう。

弘願院 森岡 達圭

年間行事について

2020年度の弘願院の各法要の日時が決定しました。各行事の前にはそれぞれ改めてご案内させていただきます。法要の後には法話のお時間をいただいております。各行事の由来や仏教について、浄土宗の教えについてお取次ぎさせていただきます。ご家族の方と調整いただき、是非ともおまいりください。

一人でも多くの方がおまいりいただけることを願っております。

4年半ぶりの開筵です!!

2020年度 弘願院 年間行事一覧

3月20日(金祝)

春季彼岸会

(しゅんき ひがんえ)

【当番寺院:極楽寺様(寺町5丁目)】

「彼岸」は、(かなたの岸)という意味があり、阿弥陀さまがおられる西方極楽浄土を意味します。極楽浄土への思いを新たにすると共に、我々と共に生きている様々な「命」の有り難さを改めて考える機会です。



4月26日(日)14時より

法然上人御忌会

(ほうねんしょうにん ぎよきえ)

北陸で広く浸透している「報恩講」は浄土真宗を開かれた親鸞聖人の御命日の法要ですが、浄土宗を開かれた法然上人の亡くなった忌日を偲び、そのお徳を讃える法要を「御忌」といいます。

浄土宗の総本山、京都の知恩院で開かれる特別な法要でしたが、今では全国各地の浄土宗寺院でも法要が行われています。



6月27日(土)14時より

施餓鬼会

(せがきえ)

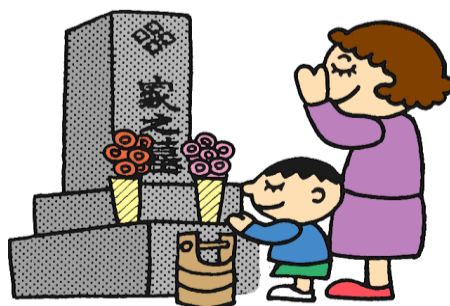
「餓鬼」は生前に物惜しみや嫉妬の想いが強く、そうした行いの報いとして飢えや渇きに苦しむ餓鬼道に堕ちた者を意味します。この施餓鬼会は餓鬼に食べ物などを施し、供養する法要です。法要でおとなえしたお経や、お念仏の功德をご先祖に振り向け、極楽での安穩と、併せて私たちの福德延寿を祈るのです。極楽浄土からご先祖を迎えるお盆とは少し異なり、施餓鬼会は自他ともに救われる功德を積むことが大切とされています。



7月13日(月)～16日(木)

お盆

金沢市内は「新盆」としてお盆を迎える風習があります。お墓参りだけではなく、本堂に上がっていただき、ご本尊である阿弥陀さまへもご挨拶にお越しください。



9月22日(月祝)

秋季彼岸会

(しゅうき ひがんえ)

【当番寺院:当山(弘願院)】

春彼岸同様に極楽浄土への思いを新たにします。そのご縁を作ってください。ご先祖さまへの真心を捧げることが出来る大切な機会です。季節の移ろいを感じながら、ぜひ家族そろってお寺参り・お墓参りをし、先立たれたご先祖を偲び、感謝の気持ちを捧げましょう。



寺町・長町・泉の範囲に弘願院を含めた浄土宗のお寺が数ヶ寺あります。お寺同志が協力し互いに行き来し、各お寺で各法要を勤めています。お彼岸の法要は毎回持ち回りで実施しており、前回弘願院で開かれたのは2016年の春彼岸でした。

この度の秋季彼岸会(9/22)は

4年に1度の当番寺院

となりますので、是非ともお参りいただき、一緒にお念仏をとこなえてまいりましょう。



秋季彼岸会が弘願院で実施のため、例年10月末に実施していた十夜法要は秋の彼岸会の中で併修をいたします。今年度、十夜法要は実施いたしません。その他開かれる行事には是非ともお参りください。

2020年度 年回表

ご法事の日程は早めにお寺に相談ください。

一周忌 平成31年 亡
 令和 元年 亡
 三回忌 平成30年 亡
 七回忌 平成26年 亡
 十三回忌 平成20年 亡
 十七回忌 平成16年 亡
 二十三回忌 平成10年 亡
 二十五回忌 平成 8年 亡

二十七回忌 平成 6年 亡
 三十三回忌 昭和63年 亡
 三十七回忌 昭和59年 亡
 四十三回忌 昭和53年 亡
 四十七回忌 昭和49年 亡
 五十回忌 昭和46年 亡
 百回忌 大正10年 亡

追善供養の意義

【中陰(初七日~七七日) / 一周忌・三回忌】

インドでは人間が生まれ変わり死に変わりするという「輪廻転生」が信じられてきました。死後、次の生をうけるまで四十九日間あるとされ、この間を「中陰」あるいは「中有」といいます。その間、遺族は七日ごとに供養をして、死者が少しでも良いところに生まれ変われるように願うのです。

このことから、日本では、初七日より七七日(四十九日いわゆる満中陰)までがつとめられるようになったと考えられます。

※浄土宗の教義では極楽往生した故人の仏果を増進し、速やかに菩提(さと)りの位に到られることを願って中陰の法要を勤めます。そして遺されたご遺族がこの縁をきっかけに仏教(仏さまの教え)に触れていただくための尊い期間でもあります。

◆百箇日法要◆

儒教の『礼記』に【卒哭忌(士は三カ月にして痛哭し卒る)】という行事があります。【卒哭】とは哭いて過ごした日々を卒えること。(没後三ヶ月ほど経過し、残された者は嘆き悲しみから立ち直りましょう、という想い。)仏教ではこれを取り入れて、この三ヶ月という九十日前後を百という満数にして「百箇日」として法要を行います。

◆一周忌・三回忌法要◆

さらに『礼記』に【小祥忌(親亡くして十三ヶ月の祀り)・大祥忌(二十五ヶ月の祀り)】があり、これらが仏教の一周忌、三回忌となったと考えられます。

- ちなみに数え方は亡くなった年を含んで数えますので、
- ・翌年が一周忌(亡くなって丸一年をまわった日)
 - ・翌々年が三回忌(亡くなって丸二年をまわった日)
- となります。

ここまでの法要はインドや中国の慣習を取り入れた形の年忌法要で、これ以降の年忌法要は日本で生まれたものです。

追善供養の意義

【年忌(年回法要)】

改めて年忌の意味を振り返ります。年忌とは亡き人の菩提(さと)りに至るための仏道)が進むことを願って、一周忌以後に一定の年ごとに勤める追善法要のことで、年回法要ともいいます。

四十九日の法要の後は百箇日の法要になり、その後に、一周忌・三回忌・七回忌と次第し、以後三・七に当たる年回忌を勤めるのが通例です。

七回忌以降の年忌の数え方には諸説ありますが、仏教、儒教、それにわが国の習俗も加わって歴史的に成立したもので、鎌倉、室町時代には今のような年忌法要が営まれるに至ります。

『法然上人行状絵図(十四世紀前半に成立した法然上人の絵伝)』には法然上人が後白河法皇の十三回忌にあたって追善の仏事を行い、六時礼讃や『浄土三部経』を書写し、菩提を弔われた、とあります。



年忌は亡くなった人のための「追善回向」のためです。

「回向」とは字の通り、「回し向ける」ことで法要の中で読んだお経やお念仏の功德を亡き人のために差し向けることです。

亡き人の菩提の増進を願って善根功德を積むことを「追善」といいます。亡き人の為に「南無阿弥陀仏」のお念仏をとなえて回向すれば、阿弥陀さまの慈しみの光に照らされて仏果が増進し、やがて還相(極楽浄土に往生した者が再びこの穢土(我々がいる迷いの世界)に還ってきて、人々を教導し共に浄土へ向かうこと)される、そのような思いで法要を行います。

年忌などの追善法要はその時だけ勤めればよいのではなく、日々のお念仏を勤める延長にあるのだと心得てまいりましょう。

総本山知恩院御影堂の落慶法要が間近となりました！！

檀信徒の皆さまのお力添えによって始まりました浄土宗総本山知恩院の国宝でもある御影堂の平成大修理事業を終えました。2020年4月13日の落慶御遷座法要を皮切りに、5月以降は落慶記念団体参拝も予定されています。

石川教区としましては御影堂落慶記念団体参拝を令和2年9月3日(木)に予定しております。詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

2020年は東京オリンピックだけではありません。2012年より始まった修復工事を終えた御影堂に是非とも一人でも多くの方と一緒に参拝できたら幸いです。



当山所蔵 絹本地刺繍仏涅槃図(金沢市指定文化財)の公開

弘願院には江戸時代に刺繍で作成された大変珍しい涅槃図があります。

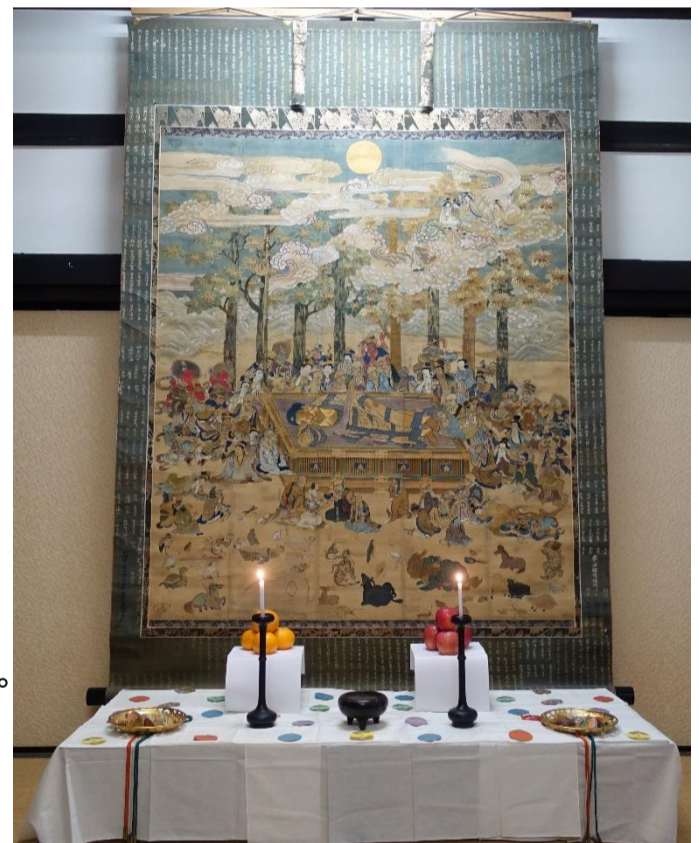
さらには作成を発起された方、その作成に賛同いただいた多くの方のお名前やご戒名も縫われており、当時の厚い信仰がこの現代にも伝わっています。

期間中に本堂脇に掲げておりますので、是非ともお参りください。

涅槃図公開日時

- 3月17日(火)、18日(水)、19日(木)、22日(日) 10時～16時
- 3月20日(金) 10時～12時 (他寺院様での法要の為)
- 3月21日(土) 13時～16時 (法事のため)
- 3月23日(月) 14時～16時 (他寺院様での法要の為)

- ・上記の公開日時は暫定のものであり、今後法務等が入った場合は変更する可能性があります。
- ・参拝を希望される方は、必ず参拝日時や人数等を電話またはメールにてご連絡ください。場合によっては調整させていただくことがありますので、ご了承ください。

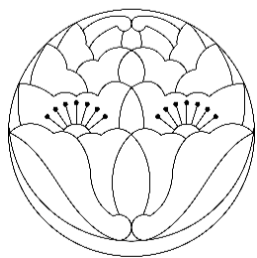


編集後記

元号が令和となり、最初の新年が明け、早くも一か月が経過しました。改めまして本年もどうぞよろしくお願いいたします。

雪景色をなかなか見ることができない冬であります。また、近年は夏も暑い日が続くなど、気候変動のせいで、お手紙や文章を作成する際の「時候の挨拶」に戸惑ってしまいます。

そう言っている間に春ももう目の前です。



浄土宗 安養山

ぐ がん いん

弘願院

〒921-8031 石川県金沢市野町1-3-87

Tel : (076) 243-8024 Fax: (076) 243-5165

mail : guganin.jodo@gmail.com



ホームページ



facebook



Instagram

※携帯電話のカメラを近づけてQRコードを読み取りください。

金沢市 弘願院

法然共生

「安養～弘願院だより～」

第6号

発行年月日 2020年2月10日

発行者 安養山 弘願院

住職 森岡 達圭

たっけい